

第1回福井県教員育成協議会 概要

平成29年10月2日（月）

10:00～12:00

県庁2階中会議室

1 開会

2 委員紹介

3 福井県教員育成協議会開催要領について

- ・資料1に関する事務局説明、承認

4 議事 福井県教員育成指標（仮称）について

（1）教育公務員特例法改正の概要について

- ・資料2、資料3に関する事務局説明

（2）福井県教員育成指標（仮称・案）について

- ・資料4-1、資料4-2、資料5、資料6に関する事務局説明

〈主な意見〉

① 求める教師像、ステージ・資質・能力の設定

- ・（委員）「教科に関する高い専門的知識と技能を持った人」について、現在は教科の専門性のみならず、教科内容学、教科内容構成学などの新しい学問、考え方も出てきている。より実践的な技能が強化される今後に向けて明記するとよい。

② 採用時の姿

- ・（委員）「小学校で英語を指導できる力」はあえて示さなくてもよいか。「英語」だけではなく、すべての科目を教えないといけないので、「英語」は当然ということではないか。
- ・（事務局）育成指標自体は、随時必要に応じて修正していくものという立場で、今、特に重要なものとして示している。
- ・（委員）特別支援学校は、普通学校とは違う協働で教育することが多い。複数で担当するときの自分の役割を理解して働けることが採用時でも重要である。
- ・（委員）授業力の第1ステージに指導と評価の一体化ということがあるが、これは採用段階で必要な理解ではないか。

- ・(委員) 採用段階でこの文言が理解できるかという疑問がある。教員が現場に入って育っていくという部分もあると思う。

③ 教員の資質・能力 (第1～3ステージ)

- ・(委員) 教員は自己研鑽だけでは解決できない部分が多々ある。どうすれば学び合う組織を作っていくかが重要である。それぞれのステージが単独にあるのではなく、他のステージの人とどのように関わるか、同僚性の中で培っていく仕組みが重要である。
- ・(委員) 教師像の「専門分野に偏らない幅広い教養」は専門分野に偏らないという趣旨でもあるので、「素養」の「学び続ける力」のところで工夫をしてほしい。

④ 管理職の資質・能力

- ・(委員) 学校経営の「特別支援教育コーディネーターを充実」とあるが、実際は関係機関とのコーディネート力が求められている。

(3) 福井県教員育成指標 (仮称) の活用について

- ・**資料7**に関する事務局説明

〈主な意見〉

- ・(委員) 指標の内容については、詳細に作りこみすぎて作って終わりになることは望ましくない。文言についてもできるだけ簡潔に示せるとよい。
- ・(委員) 指標は作られて終わるのではなく、活用においてPDCAサイクルを回していくことが重要である。また指標そのものについても、随時見直しを図られるような体制を構築することが必要である。
- ・(委員) ステージが加算的に上がることはわかるが、特別支援教育の専門性でいうと、知的やろうなど勤める学校での障害種が変わると、第1ステージに戻るということもある。必ずしも進むだけでなく戻ることもある。
- ・(委員) 大学としては、採用時の姿の中の素養を備えた学生が入ってきてくれるとありがたい。大学でもアドミッションポリシー、デュプロマポリシーの見直しの際に参考にしていきたい。
- ・(委員) 各教員が活用することを前提に考えると、自分で丸をつけてみて、自分の足りないところを研修に行くということで整理できると良いと思う。

5 その他

- ・次回は12月に開催予定